

スカウティング

令和元年9月1日発行 通巻733号(奇数月1日発行) 昭和33年12月15日 第3種郵便物認可

www.scout.or.jp JAPAN

SCOUTING



2019
No.733
9

速報

第24回 世界スカウト ジャンボリー 富士特別野営2019



SCOUTS
Creating a Better World



そなえよつねに
ボーイスカウト

CONTENTS

02 速報 第24回世界スカウトジャンボリー

15 日本連盟情報

15 維持会員

16 速報 富士特別野営2019

22 訃報

23 SDGs

23 スカウトショップ



第24回世界スカウトジャンボリー

4年に一度の大イベント「世界スカウトジャンボリー」。月日が経つのは早いもので、私たちがホストを務めた第23回大会から4年を経た今夏、第24回大会は「UNLOCK a NEW WORLD」をテーマに、カナダ、メキシコ、アメリカの3連盟がホストとなり、アメリカ連盟所有のハイアドベンチャーベースのひとつで山手線の内側の面積に匹敵するほどの広大な「サミット・ベクトル・リザーブ (Summit Bechtel Reserve 以下 SBR)」を会場に開催。2019年7月22日から8月2日の12日間、146の国と地域より41,843人^{*}が参加し、日本からは1,207人が派遣団として参加した。

会場独自のハイアドベンチャープログラムのほか、GDV (Global Development Village) といった地球規模で起きているさまざまな問題について考えるプログラム、キャンプライフ、国を越えた交流など、今号の特集では大会の様子はもちろん、2週間におよぶ日本派遣団のスカウトたちの様子や成長についてお届けします。

Arrival & Opening Show

飛行機やバスなどを乗り継ぎ、丸1日以上かけて会場に。日本派遣団の到着は雷雨から始まった。多くの荷物を背負い、極力濡れないようにと慎重に各サイトに向かうと、すでに設営が終わっているサイトも。ホスト国のスカウトたちが他国から参加するスカウトのために設営を行ってくれていた。サイトを回って、雨の中、感動と心からの感謝を伝えた。

参加者が一堂に会す Opening Show。会場に集まったスカウトたちの間から、ディズニー作品「ライオンキング」の主題歌「サークル・オブ・ライフ」を歌う Lebo M が登場し、会場を沸かせた。続いて各国の国旗が入場。日本のスカウトには、前回のホスト国だったこともあり、会場中からたくさんの声

援をいただいた。続く「おきて」の唱和は、会場にいる全員が同じ想いをもち、ひとつの兄弟であることを再認識した瞬間だった。大会マスコットの「ヨナ」も登場し、大会ソングを全員で合唱。世界スカウト運動のチーフアンバサダーであり、イギリス連盟の総長、冒険家としても有名な Bear Grylls も登壇し、会場はさらに盛り上がった。多くの人から寄せられたメッセージの後には「Recycled Percussion」が登場するなど、さまざまなパフォーマンスが行われた。最後には複数のドローンが大会ロゴやスカウトマークなどを空中に描き、会場の興奮は最高潮に。

多くの国旗、スカウトたちの声と熱気。第24回世界スカウトジャンボリーがここに開幕した。

SCOUT JAMBOREE



大会概要

期 間：2019年7月22日から8月2日

参 加 者：146の国と地域より41,843人※ 日本派遣団 1,207人

場 所：アメリカ・ウェストバージニア州 サミット・ベクテル・リザーブ

テ マ：UNLOCK a NEW WORLD (新しい世界の扉を開こう)

※参加国数および参加人数は8/1時点世界スカウト機構調べ



Program 1

今大会のプログラムは、想像をはるかに超えるさまざまなアクティビティが勢ぞろい。前記のとおり、アメリカ連盟のハイアドベンチャーベースでもあるSBRの常設プログラムは、マウンテンバイクや長さ2/3マイルのジップライン、さまざまな種類のアーチェリーやボルダリング、ハイキングなどのアドベンチャープログラムのほか、スケートボードやBMXなどのエクストリームプログラム、カヤックやスキューバダイビングなどのウォータープログラムも。

スカウトたちは各班あるいはバディーで計画を立て、広い会場内を徒歩やシャトルバスなどで移動しながら、多くのプログラムに参加した。







Cultural Celebration Day / Unity Show

大会5日目の7月26日。この日は Cultural Celebration Day。世界スカウトジャンボリーならではのプログラムであり、多くのスカウトが楽しみにしていた日。

各サイトでは、それぞれの国や地域の伝統的な遊びやパフォーマンス、食事などを紹介。日本派遣団のサイトでは折り紙や浴衣の着付け、習字や空手、抹茶やおにぎり、かき氷など、さまざまな文化を紹介した。同様に各国もさまざまな文化を紹介。

会場内は普段テレビやインターネットでしか見たことのないような民族衣装を身にまとったスカウトたちで埋め尽くされ、多くの楽器が鳴り響き、スカウトたちは互いの文化を心ゆくまで体験した。

そんな特別な日を締めくくった Unity Show。それぞれがさまざまな衣装をまとい、AT&T Summit Stadium に集合。ホスト国のひとつであるメキシコの華麗なダンスから始まった。壇上にはホスト国よ

り各代表スカウトが登場。映像なども使い、ホスト国の紹介はもちろん、さまざまな音楽や文化などが紹介された。そして「BROADWAY SINGS DISNEY」が登場。多くの国で愛されるディズニーの曲は、世界中で知られているといっても過言ではない。会場の全員が肩を組み歌い、会場がひとつになった。最後はスカウトたちが着用している「Novus[®]」が一斉に光り出し、幻想的な空間がつけられた。

※詳細後記





Program 2

地球規模の問題を考え行動する GDV や各国の派遣団が提供する World point、このほかにも 3D プリンターやロボットなどを体験するエリア、持続可能な社会について考えるツリーハウス、信仰奨励エリア、SNS や写真などのメディア関連プログラムなど、常設のアドベンチャープログラムのほかにも、数えきれないほどのプログラムがスカウトたちを待っていた。

各プログラムではスペシャルイベント

もあり、GDV では NASA の Michael E Fossum 宇宙飛行士も来場して特別講演などが行われた。また、各国から選出されたスカウトがアンバサダーとなってブログなどでさまざまな発信をするプログラムや、WWF と世界スカウト機構が新たに連携して取り組んでいく「New Panda Badge」が発表されたほか、「Novus」という腕時計型の小型端末がスカウトたちに配布されるなど、今大会は新たな取り組みが多数あった。

Novus は、各プログラムのチェックインでも使用。さまざまなプログラムを回ってチェックインポイントをためると、日本のジャンボリーでいう「パイオニア賞」のようなアワードをもらうことができる。さらに、携帯アプリと連動し、端末のボタンを押して他の端末に近づけると、相手の名前やメールアドレス、SNS のアカウント情報などの交換もできる。





Camp Life

ジャンボリーのもうひとつの大切なプログラムである Camp life。約2週間、班員や同じ隊のスカウトたちと互いに支え合い、寝食を共にする。また他国とも積極的に交換夕食会などを行ったほか、ワッペンなどの交換も盛り上がり、すべての瞬間がスカウトたちにとって大切な思い出となった。

1つのベースキャンプには4つのサブキャンプがあり、会場内は成人生活エリアを含めた6つのベースキャンプで構成されていた。スカウトたちへの配給は、携帯のアプリを使って買い物をするマーケット方式。各サイトでの調理はプロパンガスを使用。このほか、常設のトイレやシャワー、会場内100を超える給水ポイント、Wi-Fiが生活エリア全域をカバーするなど、現代的な設備であった。

買い物や食事もある大切な思い出づくり。会場内には成人エリアを含め3つの巨大な Trading Post があり、記念グッズが購入できた。Food House エリアでは、各国派遣団が出店するそれぞれの国の伝統的な食事に舌鼓を打っていた。





Closing Show

8月1日、Closing Show。交通などの関係で参加者の約1割、日本派遣団も約半数が参加できないなか、雨の影響により1時間以上遅れてスタート。カナダの伝統音楽に続き、世界スカウト機構の Ahmad Alhendawi 事務総長が登壇し、次回の世界スカウトジャンボリーのホスト国連盟で

もある韓国から、潘 基文 元国連事務総長も登壇した。その後、韓国連盟の代表スカウトたちが登壇し、世界スカウト旗が韓国へと引き継がれた。そして日本でも有名なアカペラグループ「Pentatonix」が登場。壮大な花火が打ち上げられ、第24回世界スカウトジャンボリーが閉幕した。



IST

今大会は、約1万人ものIST (IST: International Service Team) が大会の運営を支えた。日本からは18歳以上のスカウトおよび指導者70人が参加。70人のうち、半数以上がローバースカウト年代や18歳のベンチャースカウト。その多くが23WSJにスカウトとして参加し、「あの時の感動や体験を後輩たちにも体験してほしい」「あの時のお返しができたら」と参加を決めたそうだ。ISTは参加隊よりも早く入場し、遅く退場する長期派遣。皆さんありがとうございました。



アメリカの 各都市見学

日本派遣団独自のプログラムである各都市の見学。残念ながら飛行機の遅れなどによるトラブルに見舞われ、予定外の場所を見学した隊もあったが、ワシントンD.C.やニューヨーク、デトロイト、シアトルやロサンゼルス、ラスベガスなどをそれぞれ見学した。

第25回 世界スカウトジャンボリー

今回の第25回世界スカウトジャンボリーは、日本のお隣、韓国で「Draw Your Dream」をテーマに2023年に開催予定。会場となるのは、朝鮮半島の南西に位置するセマングム。干拓地を利用した会場だ。

今回参加したスカウトも参加できなかったスカウトも、4年後の第25回世界スカウトジャンボリーにぜひ参加し、世界の仲間と共に過ごす貴重な2週間をぜひ体感してほしい。





Summit

BECHTEL RESERVE™

サミット・ベクテル・リザーブ

会場となったサミット・ベクテル・リザーブは、前記のとおり、日本でも有名なフィルモント・スカウト・ランチなどと同様のアメリカ連盟のハイアドベンチャーベース。2010年より運営され、広さ約1万エーカーの広大な土地を誇る。立地を生かしたハイキングコースや人口池などを活用した20以上のハイアドベンチャープログラムやエクストリームスポーツプログラムが常設され、その待ち時間が携帯アプリと連動されるなど、今世界が注目している最新鋭のボーイスカウトのキャンプ場だ。

土地をはじめ、開拓や施設の建設、プログラムスポットなどは多くの寄付から成っており、会場には寄付者の銅像や名前がついた建物などが多数ある。

過去2013年と2017年にはアメリカ連盟のナショナルジャンボリーを行っており、次回2021年のナショナルジャンボリーの開催地でもある。

常設のハイアドベンチャーベースなので、ぜひ機会を見つけて訪問してみたいだろうか？

<https://www.summitbsa.org>

派遣団長所感

アメリカ・ウェストバージニア州サミット・ベクテル・リザーブにおいて開催された第24回世界スカウトジャンボリーに、日本派遣団1,207人が参加しました。

出発直前の7月19日には秋篠宮皇嗣殿下から日本派遣団国旗を拝受し、それぞれが各地での準備訓練を終えて現地に向かいました。

今回のジャンボリーは「新しい世界の扉を開こう」のテーマのもと、冒険、経験、友情のコンセプトで世界140余りの国と地域から約4万2千人が集まり、スカウトたちはラフティングやジップラインをはじめ、広大な会場内にある20以上のプログラムに積極的に参加しながら、多くの外国スカウトと国際交流を深めました。特に中日には隊ごとに日本食のランチを

提供し、日本の習字、けん玉、折り紙を教えるなど、外国隊との交流を楽しんでいました。

さらに、今回は「Novus」という、相互に名前やアドレスが交換できる小型の端末機を使用し、帰国後も外国スカウトとの連絡が容易にできる仕組みがあり、今までになく進化したジャンボリーを体感しました。

山岳地帯ゆえ朝夕は冷え込みますが、日中は晴れていれば相当の高気温。また、何度か降雨もありましたが、大きな問題にはならなかったのは幸いでした。

隊指導者や本部員、ISTの皆さん、円滑な運営にご協力いただき、ありがとうございました。すべての参加者が今回のジャンボリーで多くの学びと成長を得て、生涯の良き思い出とし、今後のスカウト活動で活躍されることを期待しています。



日本派遣団長
水野 正人